



とねっと協議会だより VOL.19

【参加施設数】147施設（中核施設12、病院・診療所89、歯科医療機関10、調剤薬局30、検査施設6）
【参加住民数】32,884人（うち圏域外住民15人） *7月31日現在

発行日／ 令和元年8月26日 発行／ 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局
電話番号／ 0480 (63) 0003 FAX／ 0480 (63) 0033 URL／ <http://www.saitama-tonet.jp>

令和元年7月30日(火)に第8期通常総会を開催しました。総会では主に次の3項目について報告し、また、2項目の議題について協議が行われました。

I 報告事項

1 深谷寄居医師会の視察について

5月30日(木)に深谷寄居医師会、深谷赤十字病院、深谷市、寄居町、熊谷保健所 計19名が「とねっと」を視察されたことについて報告しました。

2 国のIT医療連携システムの整備方針の現況等について

6月21日に政府が公表した「骨太の方針2019」を受け、国のデータヘルス改革のスケジュール変更や変更に至った理由等について報告しました。

○工程表の作成：平成30年夏頃⇒令和2年夏頃

○システムの本格稼働：令和2年10月～12月

⇒ 令和3年10月

3 圏域外医療機関(救急参照面)のシステム参加方法について

救急参照面でのシステム参加の特例について報告しました。

○圏域外中核病院で紐付けされていない患者の情報閲覧について、救急面という特性及び普及施策として「救急アプリ」を用いた方法で閲覧させる特例を運用面を整備し、認めることとする。

*本来なら医療機関での紐付けが必要だが、「とねっと」参加患者であれば、処方等の全ての医療情報等が参照できる仕組みとする。

○圏内の中核病院も同様の取扱いとする。

II 協議事項

1 平成30年度事業報告及び収支決算(案)を議決

平成30年度の財務活動状況や普及啓発の取組などをまとめた事業報告と協議会の運営に係る収支決算が議決されました。

【収支の状況】

○決算額：11,835千円（前年度：257,875千円 ▲246,040千円）

*新システム更新事業委託（ソフト分として222,145千円）や旧システム保守費（22,280千円）等の減による。

事業活動収入 11,647,159円 事業活動支出 11,834,427円

当期収支差額 ▲187,268円 前期繰越収支差額 1,413,830円

次期繰越収支差額 1,226,562円

2 地域医療ネットワークシンポジウムの開催(案)を決定

①令和元年度の地域医療ネットワークシンポジウムを以下のとおり開催することが決定されました。

【日時】令和元年3月7日(土)又は3月14日(土)
午後1時30分～3時50分

【会場】白岡市コミュニティセンター
白岡市大字白岡857-6

【内容】基調講演及びパネルディスカッション

新【その他】会場内に住民参加型の体験コーナー（救急面、病診連携、健康記録等）を設置し、シンポジウムの開催前後に救急隊やNECの協力を得て、救急タブレットやパソコン等での実演・操作体験を実施する。

②令和2年度以降の地域医療ネットワークシンポジウムの開催地・開催場所等の方向性について承認されました。

○開催目的の整理：普及啓発と併せ利活用の促進へ

○名称の変更：シンポジウムから「とねっと」フェアや「とねっと」の集いなど

○開催場所：行政の施設から中核病院や多くの人が集う場所（ショッピングモールなど）

○開催内容：オープニングセレモニー、基調講演、住民参加型の体験コーナーでの実演・操作体験（現場での具体的な活用事例の紹介を含む。）

*この協議結果については、作業部会（11月開催予定）での協議・承認を受け、協議会（R2年3月開催予定）へ提案することとする。

◆◆◆お知らせ◆◆◆

●とねっとカードの「紐付け」をお願いします。

患者情報の登録・参照には、各医療機関で患者様のカードIDを「とねっと」に登録していただく必要があります。協議会事務局による「紐付け」作業の代行も行っておりますので、ぜひ、ご利用ください。

●令和元年度分の協議会への負担金の納入をお願いします。

各医療機関の皆様にご連絡させていただきますので、ご協力をお願いします。なお、口座振替も可能でありますので、ぜひ、ご活用願います。

【負担金額】

- ・中核施設 年額 50,000円
- ・病院 年額 20,000円
- ・診療所 年額 10,000円
- ・歯科 年額 10,000円
- ・調剤薬局 年額 10,000円

●(株)LSIメディエンスが、システム整備費を全額自己負担され、8月1日から「とねっと」に参加しました。

・血液検査データの自動アップ率 88.2%→94.1%

※裏面に、「とねっと」システムの主な活用状況を掲載してあります。

「とねっと」システムの主な活用状況（平成31年4月～令和元年7月まで）

1 医療機関での参照件数（病院・診療所の所在地別）

①病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 122件

（内訳）加須市9件、羽生市1件、久喜市5件、幸手市89件、杉戸町18件

○活用内容

中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

②中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 36件

（内訳）加須市9件、羽生市1件、久喜市9件、幸手市3件、宮代町7件、杉戸町7件

○活用内容

病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を中核病院が参照

2 救急システム延べ使用回数：696回（医療機関42回、タブレット654回）

3 健康記録延べ使用回数：1,757回

○活用内容

スマホの「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方、調剤情報の入力（中核病院や調剤薬局は自動登録）・時系列参照等による自身の健康管理に活用

4 救急端末参照システムの使用状況（平成24年7月～令和元年6月まで）

「とねっと」参加患者の搬送人数 2,088人

うち、1,772件の搬送において、情報参照及び医師への申し送り等に効果

（内訳）行田市2人、加須市964人、羽生市9人、久喜市139人、幸手市177人、白岡市17人、宮代町153人、杉戸町311人

■救急タブレットの活用事例（消防からの情報提供）

日 時	令和元年5月8日	水曜日		種別	急病	搬送先病院	済生会栗橋病院
傷病者情報		年齢	69	性別	男	傷病名	意識障害 心不全疑い
		程度				程度	中等症
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・加須市内の施設にて、会話中に意識障害を起こしたもの。 ・傷病者は意識障害があり、本人からの聴取は困難。関係者から氏名は聴取できたが、病歴、処方薬等の情報は不明であった。 						
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・救急タブレット端末（とねっと）で医療情報、家族等が判明し、病院連絡、病院収容が迅速に行えた。 ・「とねっと」のおかげで、遠方に住んでいる家族へ早期に連絡をすることができ、病院へ駆けつけてもらえた。 						

5 連携パス機能の活用状況（令和元年7月末現在／東埼玉総合病院）

①循環型連携パスの適用患者数 372人

（内訳）適用患者の所在市町村別内訳

加須市6人、羽生市1人、久喜市28人、蓮田市1人、幸手市71人、白岡市4人、宮代町92人、杉戸町169人

⇒ 連携パスを院内の患者に適用することによって、病院・診療所間の連携だけでなく、患者の検査実施状況のチェックや異常値の把握などにも活用

②連携パスを用いた連携施設数 31施設

（内訳）連携施設の所在市町村別内訳

加須市2、久喜8、蓮田1、幸手10、宮代3 杉戸7